

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	大町町立小中一貫校大町ひじり学園
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の工夫により、主体的に学ぼうとする態度の育成を図ることができた。一方で授業におけるICT活用には個人差が見られた。今後、研修等を実施し、スキルの向上を図るとともに、効果的な指導方法を研究し、共通理解・共通実践を図りたい。 ・校内研究での特別活動の研修や計画的な周知と活動で、児童生徒会組織への円滑な移行ができた。今後は、児童生徒会組織を中心としてリーダーの育成を図るとともに、主体性をもって活動できる児童生徒の育成を教育活動全体を通して推進する必要がある。 ・部会や主任会を定時開催し、業務のボトムアップを実現することで、計画的で効率的な学校運営と、時間外勤務の削減が可能となった。今後は働きがいのある職場を目指して、働き方改革を推進する。
2 学校教育目標	<p>「大磨 智誠」 ～知・徳・体を大きく磨き、人格の完成を目指す～</p> <p>「夢に向かって絆・全力・挑戦」 ～夢と誇りをもち、社会をたくましく生き抜く児童生徒の育成～</p>
3 本年度の重点目標	<p>①主体的に学ぼうとする態度を育てる学習指導の工夫と教育DXの推進を図る。</p> <p>②児童生徒会活動を中心として、主体性とリーダーの育成を図るとともに、道徳教育を通して豊かな心の育成を図る。</p> <p>③部会や主任会におけるボトムアップを通してシステムの改善および意識改革を図るとともに、働きがいのある職場を目指してwell-beingの意識を高めながら働き方改革を推進する。</p>

4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成した教師85%以上にする。 ○授業評価アンケートで、肯定的な回答をする児童生徒の割合を80%以上にする。 ○家庭学習を継続的に行う習慣が身についたと感じる児童生徒を70%以上にする。	・学力向上対策評価シートの共通実践、成果指標についての共通理解の場の設定 ・共通実践をもとにした授業づくりの定期的な呼び掛け ・「効果的な学び方講座」(5～7年対象)及び職員研修(年4回)実施
		○「授業の中で学習用パソコンを活用することができる」と感じる児童・生徒を90%以上にする。 ○「授業の中で学習用パソコンを積極的に活用させている」と感じる教職員は70%以上にする。	・学習規律について、共通理解の場の設定と「学習のきまり」に準じた指導 ・ミニ研修会の実施(パソコン活用における実践交流の場の設定) ・eライブラリの活用 ・タイピングコンテストの実施(タイピングの向上)
		○「学習のきまり」を守ることができた」と肯定的に回答した児童生徒を75%以上にする。	・「学習のきまり」について、共通理解の場の設定と指導 ・学習チェックの実施(年2回)
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○命の大切さや相手の立場を考えて思いやることができるようになったと言える児童生徒90%以上にする。	・生命尊重、思いやり等の道徳授業の実践 ・本物に触れる体験活動の取組 ・平和集会、人権集会の取組
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめの早期発見、早期対応に努める」と回答する教職員を100%とする。	・Q-Uの実施、心のアンケート(毎月) ・教育相談部会(月末火曜日6時間目) ・小中合同生徒指導・教育相談連絡会(年2回) ・児童生徒情報交換連絡会(隔週)
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童生徒を80%以上にする。	・「出番・役割・承認」の開発的生徒指導の実践 ・夢や誇りをもちつづことができるような体験的な行事や地域と連携した学習の実施
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」と思う児童生徒を90%以上にする。	・学級活動等における食育指導の推進 ・朝食の意義や食事の大切さについての児童生徒の啓発及び家庭への協力の呼びかけ ・全校児童生徒への栄養教諭を中心とした食育指導の実践
	○大町型体育の推進	○体育、保健体育の学習や外遊び、運動が楽しいと思う児童生徒を80%以上にする。	・体育、保健体育の学習指導の工夫と職員研修による指導力の向上 ・運動環境の充実と外遊びや運動の推奨 ・体育的行事(体育大会、ひじり杯、クラスマッチ、スポーツチャレンジ)の実施
	○防災教育・安全教育の推進	○学校内外での安全意識を高める。 ○災害時において取るべき行動について正しく理解している児童生徒を90%以上にする。	・登下校指導・各種訓練・危険箇所の点検見回りの実施とその結果を活かした児童生徒への指導 ・防災についての講話や体験を通じた主体的に行動することや支援者としての態度の育成
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●月の時間外勤務時間を一人当たりの年平均45時間以内とする。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週水曜日午後は職員裁量時間として運用 ・定時退勤日(水・金)の推進 ・(長期休業中の学校閉庁日の設定) ・部活動休業日の設定 ・教科担任制の推進 ・勤務時間外留守番電話の設定
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○キャリア教育の推進	◎生徒が夢や誇りをもち、社会をたくましく生き抜くための教育活動	●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒の割合を80%以上にする。 ◎「将来の夢や目標」をもち、目標を意識して活動ができていくと感じる児童生徒の割合を60%以上にする。	・キャリア教育の捉え方を、教員・児童生徒・保護者が再認識する。 ・児童生徒が地域や社会に貢献する志をもつため、「志共有」の実践を5年生以上で取り組む。 ・教育活動全体を通して計画的にキャリアパスポートを活用する。キャリアパスポートの中に、夢や目標についての項目を追加し、系統的に進路や生き方について考える機会を設定する。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
--------------------	---